

＜新木場＞ 気になるスポット 「鴨川商店」を訪ねて

月報委員 細田俊輔

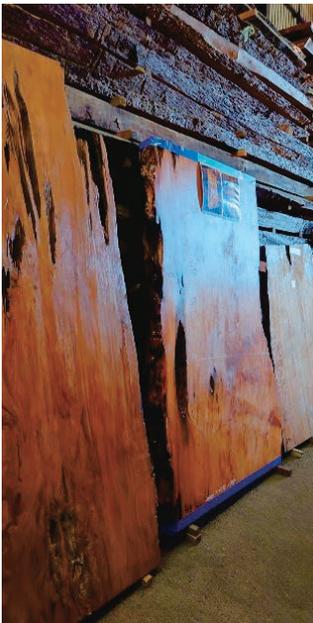
1月30日月曜日 大寒波襲来の寒い朝、株式会社 鴨川商店様を訪ねて参りました。当日は本西常務理事・深谷委員長と一緒に伺い、鴨川会長、齊木社長に温かくお出迎えいただき、お話を聞かせていただきましたので、ご紹介させていただきます。

私たちを迎えてくれたのは、長さ約4.2m×幅2mはあるウォールナットの特大の板。重厚感のある優しいこげ茶色から紫色の木肌と美しい木目、一目で惚れ惚れします。

展示倉庫には、樹齢数百年、数千年にもなる原木から製材された、神代杉、屋久杉、クス、栃、桧、松、ケヤキ、マホガニー、チーク、チェリーなど種類も量も豊富で圧倒されます。



上・下 ウォールナットの特大の板



屋久杉耳付板で樹令1,000年以上の物。伐採は200年位の昔に行われ杢の縮みが多く刃物が少ないので割る術がなく土に埋もれていた物と考えられます。



樹令推定1,000年以上の屋久杉





上の画面は天然木曽松丸太（樹令約350年位）の製材風景

当日は、特別に天然の木曽松の製材を見学させていただきました。

年に何回も出材されないという 5300×750丸の丸太。お寿司屋さん向けのカウンターを製材していきます。

実際に展示物と製材を見学させていただき、世界中の原木・板に出会い、ときめきわくわく感をおぼえました。また日本各地からアメリカ・アフリカ・東南アジア・南米と世界旅行に行ったような気分になりました。

世界中から木材を仕入れ、製材、加工、販売と多岐にわたり木材の普及に尽力されてきた鴨川商店様。

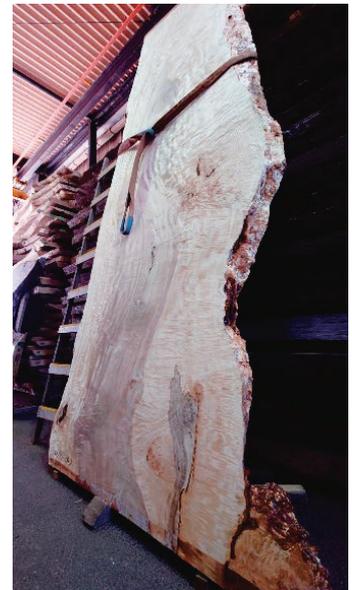
そこで学んだことは、木材との巡り会いを大切にし、かけがえのない天然木を大事に使うこと、そして出来る限り長く使うもの作りをすることでした。それには、私自身まだまだ不勉強であり、学ぶべき事がたくさんあると感じました。

鴨川会長より「木を基本から学びなおし、誇りをもって木材の仕事をやって欲しい。」とお言葉をいただき、日々の仕事に真摯に向き合わなければと、身の引き締まる思いです。

最後になりますが、ご多忙中にも拘わらず、長時間にわたりお話を聞かせていただき、そして今回の貴重な松の製材を見せていただいた鴨川会長、齊木社長、また社員の皆様に厚く御礼申し上げます。



画面右側の横積みした中広耳付板はケヤキで幅900～1300ミリ位の物（テーブル天板他）



上は島根県産枌の幅1300ミリ位の耳付材